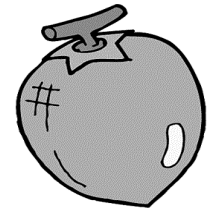


柿栽培技術情報（9月の管理）



令和2年8月28日

宮城県大河原農業改良普及センター

《9月のポイント》

炭そ病の降雨による感染拡大に注意しましょう。

仙台管区気象台の東北地方3か月予報（令和2年8月25日発表）によると、9月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みです。

今後の炭そ病の発生は、降雨が続くと発病が激しくなります。台風や秋雨前線に注意し、栽培管理を計画的に実施しましょう。

1 炭そ病

炭そ病は、高温・乾燥期間が続くと一時沈静化しますが、気温が下がる8月下旬以降に降雨が続くと発病が激しくなります。今後の気象予報と気象経過に注意し、計画的に防除を行います。

（1）発病による果実の症状

- はじめ黒色小斑点を生じ、その後拡大して中央部濃黒色、健全部との境が不鮮明な円形～楕円形の少しくぼんだ病斑となります。発病した果実は着色が早く、落果します。



炭そ病が発病した果実

（2）耕種的対策

- 新梢の発病を徹底して防ぐことが重要です。樹形が乱れても病斑枝の切除を徹底します。また、枝の軟弱徒長を防ぐため、窒素質肥料の多肥は避けます。
- 発病した果実は速やかに取り除き、園地外に処分します。

（3）薬剤防除

- 8月下旬から9月下旬までが、生育期間の最後の重点防除時期になります。
- 炭そ病菌は雨滴で感染するので、薬剤散布のタイミングは降雨前が原則です。ただし、降雨までに薬液が乾く程度の時間は必要です。

参考 9月のかきの病虫害防除事例

令和2年8月12日現在

散布時期	対象病害	薬剤名	FRAC	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数
9月上旬	炭そ病	ナリアWDG ※1	11/7	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内
9月下旬	炭そ病	ストライド顆粒水和剤 ※2	M11	3,000～4,000倍	収穫14日前まで	4回以内
10月上旬	炭そ病	トップジンM水和剤	1	1,000～1,500倍	収穫前日まで	6回以内

※ 農薬使用上の注意

- ・ 使用回数はその農薬の使用回数を示していますので、農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。

※1 ナリア WDG

浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると薬害が生じるおそれがあるのでさけます。

※2 ストライド顆粒水和剤

スミチオン乳剤との混用散布及び 7 日以内の近接散布は薬害を生じる場合があるのでさけます。

夏季高温時の他の薬剤との混用散布は、薬害を生じる場合があるのでさけます。

2 落葉病

- ・ 8 月下旬以降、落葉病が発生した園地では、落葉処理や重点防除時期の 5 月上旬～7 月上旬に薬剤防除が不十分だったと考えられます。これからの薬剤散布では、効果はありません。
- ・ 被害落葉は土中に埋めるなど、適切に処分します。



円星落葉病の秋の病斑

3 後期落果

生理落果は、6 月～7 月の早期落果と 8 月中旬から 9 月中下旬の後期落果があります。

そのうち後期落果は、へたを樹に残して果実だけ落ちるものです。その要因として、愛知県農業総合試験場では、夏肥を多く施肥した場合に後期落果が多くなると報告しています。また、夏の干ばつで根の発育が一時的に停止したのち、8 月下旬以降の雨で再び根が伸長を始める際に根と果実の養分競合が起こり、さらに長雨や日照などの条件も関係があるといわれています。

4 台風対策

(1) 事前の対策

- ・ 強風に備えて樹体は支柱で補強しておきます。
- ・ 排水が速やかに行われるよう園地周辺の排水路の点検、清掃を行います。

(2) 被害拡大防止のための対策

- ・ 倒伏した場合は、健全な根を切らないようできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定します。
- ・ 被害により樹勢が弱まっている場合は、薬害が発生しないように留意しつつ病虫害の防除を実施します。

9 月も気温は高いと予想されています。

熱中症にならないよう、こまめに水分補給と休憩をとりましょう。